

川崎異業種研究会(以下略称川異研)は、当所会員企業から成る異業種交流のグループです。昭和62年7月に設立され、今年で24年目を迎えます。

川崎異業種研究会のホームページ <http://www.kawaiken.jp/>

平成23年度川崎異業種研究会通常総会開催される

川崎異業種研究会は、5月12日(木)川崎グランドホテルにおいて、通常総会を開催した。議場では平成22年度事業・決算報告、23年度事業計画・予算が諮られ、特に異議はなく満場一致で承認された。続いて平成23年度の新役員を選出した。

紀中会長は総会挨拶の中で、本年度の事業方針の説明を行った。「川崎異業種研究会は、来期に設立から四半世紀を迎えることとなります。創立時からの会員も世代交代した方も含め3割弱が在籍しておりますが、7割強の会員が時代の流れの中で入会して頂いております。24年を経て、名実共に多様な業種の異業種交流会になり、本年は創立25周年に向けて当会そのもののあり方も多方面より検討してみる節目と考えております。結果的に当会の活性化を図ることが商工会議所の発展、ひいては川崎市全体の発展につながることであり、それぞれが当川崎異業種研究会に課せられた一番の課題であると認識しております。そこで、平成23年度は、川崎異業種研究会の活性化を最重要目標とし、全ての事業はその目標達成のための礎であるとの観点から促進事業を考えさせていただきます。この一年間、商工会議所ご担当の方々ならびに会員の方々、また各方面の関係者の方々に並々ならぬご支援ご鞭撻を賜り、あらためまして感謝申し上げます。今後も微力ではございますが、先輩方々の築かれた当会の良き伝統を継承し、更なる発展に全力を尽くす所存でございますので、皆様方のますますのご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成23年度事業方針は川崎異業種研究会の活性化(25周年のイベント)。

事業内容として、①会員増強活動の促進:組織の活性化のために、

一昨年度来見直しして参りました媒体等を利用して新入会員の獲得を目指して活動して参ります。かわらばん・川崎商人・ホームページ等の媒体で川崎異業種研究会の活動内容を川崎の企業に広く広報活動を行い、併せて各会員による積極的な協力をいただきながら新入会員候補の発掘に努めて参ります。また、会員各位にも積極的なご紹介をお願いいたします。②会員交流事業の推進(定例会・分科会・県外視察会):企業間連携を実践するために、当会の主な事業である定例会の会員交流事業を充実して参ります。当会の理念の一つである『事業運営は自主の精神』に則り、一つひとつの事業を会員自ら企画・参加することにより会員相互の一層の理解と連帯を深めるものと期待しております。

分科会は、本年も多くの会員企業の経営テーマである事業継承を主軸に広範囲なテーマで活動して参ります。また、本年は10月に県外視察会を予定しており、見聞を広げつつ新たな会員交流の場としていきたいと考えております。

また、本年度も等々力陸上競技場で開催する川崎フロンタールのゲームを会員及び会員の従業員と共に観戦し、会員交流の場としていきたいと考えております。③企業間連携・産学連携事業の推進:本年度は、助け合いの精神に則り本来の異業種活動の原点である会員相互の企業連携を推進する事業を充実して参ります。企業間連携の推進は、川崎異業種研究会の定例会、分科会、会員企業訪問等の活動全般の場を通して実践して参ります。また、川崎異業種研究会と和光大学との産学連携の活動も、社会科学系大学と産学連携のあり方を踏まえた上で更に研究し、実践して参ります。」と語った。



続いて、和光大学経済経営学部 専任講師 清水雅貴氏をお迎えし、「日本経済の動向と地域経済における今後の展望-大震災・新県政を見据えて-」と題して、講演を行った。初めに、①指標から見る日本経済全体の動向:株価・為替・商品等の景気諸指標から分析された後、②大震災によって考えられる今後の経済動向:日本経済、地域経済(神奈川県)への影響についての説明があり、③新県政の方針と地域経済への波及効果:黒岩新知事の主要(目玉)施策、医療・環境

セクター改革のアウトライン、地域経済(神奈川県)への波及効果についての講演がなされた。

その後、場所を移し行われた懇親会では、山田会頭が来賓として挨拶、(財)川崎市産業振興財団の御前事務局長が乾杯の発声を行い、講演会講師の清水氏も参加していただき、多くの来賓・会員を交えた賑やかな懇親会となり、成功裏の内に終了した。

5月度分科会

5月18日(水)高津市民館会議室にて午後6時30分より、開催。「セルフ・カウンセリングを利用したコミュニケーション・トレーニングでストレスを軽減しよう-職場のメンタルヘルスを考える-」と題して、講師にNPO法人セルフ・カウンセリング普及協会、渡辺理事長・宮澤事務局長をお招きして、セルフ・カウンセリングについてやさしく学べるセミナーを開催して頂きました。私たちは、日常生活を始めとして、職場でも様々なストレスを感じています。そして、未曾有の大災害により、そのストレスはますます増加する一方です。そのような事態もあるからでしょうか、ゲスト参加も含めて合計20名のご参加申し込みを頂きました。

セミナーでは、「ストレスは体内で起こる正常な適応反応で、それ自体悪いことではない。そのストレスを溜めてしまうこと、負担として自分を傷つけてしまうことが問題なのである。そうしないためには、

どうしてそのストレスが発生したのかを分析し、このストレスに対してどのように対応するかということに目を向けて、自分と他者の思いにも心を通わせることが必要である」という理論の講義とそれを実践するコミュニケーション・トレーニングを行いました。ビジネスの場面に登場する具体的な事例を利用したトレーニングでしたので、その考え方やコミュニケーションの組み立て方が大変よく理解できました。心理学的アプローチというとなんとなく気後れしてしまう感がありましたが、そうした印象は全くのステレタイプであり、セルフ・カウンセリングというもの、日常生活はもちろん、ビジネスの場面でもとても役立つコミュニケーションスキルであることを実感しました。このセミナーで体験した事柄によって、参加者の皆様の職場におけるストレスが少しでも軽減されることを期待しています。(報告者:副会長 小林猛久氏)



○災害見舞金(義援金)のお渡し

5月10日(火)、川崎商工会議所多摩・麻生支所にて、川崎異業種研究会 会員有志から寄託された災害見舞金(義援金)を、東日本大震災で岩手県大槌工場が被災された紀中会長(賛友精機株式会社 代表取締役)に、原副会長、菅原副会長、田村顧問が代表して渡された。



加入のお問い合わせは

事務局:多摩麻生支所 TEL 044-932-1100